

1-(5) 技術向上と生産環境改善による観光イチゴ産地の確立

— 観光イチゴ産地の更なる発展のために —

1 活動のねらい

産地の維持・拡大のために、生産者同士の交流を促し、技術研さんを図る。また、観光いちご産地として維持・拡大するためには生物防除技術など化学合成農薬に頼らない病虫害防除の導入を推進する。

若手生産者及び新規参入者が地域で円滑に就農及び技術向上が出来るように、部会及び地域内での研修受入れ農家の確保を図る。

2 課題の背景

J Aきみつ苺部会では、観光主体の経営が多く、消費者が直接ほ場内に立ち入ることが多いため、部会員がGAPの考え方を理解し、より安心・安全な農業を実践することが求められている。また、ハダニ類の天敵利用が拡大・定着してきているが、効果的な利用方法を再度確認する必要がある。

君津地域では、平成28年度に炭疽病が多発し、生産に影響を与えた。平成29年度では徹底的な防除により発生数は減少したが、地域では今後も特に注意すべき病害であると考えられている。

新規参入希望者や後継者の就農は年1～2名程度あり、研修受け入れについて合意する生産者はいるものの、地域内で各種就農支援事業が活用可能な研修受入れ農家が確保できていない。また、関係機関や新規生産者からは事業要件に合った研修受入れ農家の確保が求められている。

3 普及活動の経過

(1) 技術力向上に向けた支援

ア 集団指導と個別巡回

育苗時に部会員による合同巡回を行い、生産者15名が参加した。関係機関や民間事業者も参加し、技術に関して意見交換が図られた。適宜個別巡回を行い、アザミウマ類やハダニ類の発生状況について確認し、防除の指導をすることができた。炭疽病についても定期的な防除を行うよう指導した。



写真1 育苗巡回の様子

イ 先進地視察研修会の開催

先進地視察研修会を開催し、生産者、関係機関合わせて12名が参加した。また、千葉県いちご組合連合の県内視察への参加を促し、視察先及び参加者間で積極的に情報交換を行った。

(2) 産地を支える体制づくりの検討

生産部会内で産地ビジョンを確立することについて、役員会で提案し検討することができた。新規・若手生産者の研修受け入れに向けて、研修の受け入れに合意する生産者へ情報提供することができた。また、市役所と新規就農希望者について情報共有を行うことができた。

4 普及活動の成果

(1) 技術力の向上

合同巡回や個別指導、先進地視察研修、試験機関、民間事業者との連携によって、病虫害防除技術が向上し、病虫害被害はほとんど発生しなかった。病虫害が発生したほ場についても適宜防除を行うことで被害の拡大は見られなかった。

(2) 新規就農希望者の研修受入れ

規就農者の研修支援として、役員会にて繰り返し検討したことで研修受け入れに合意する生産者が3戸となった。部会長を中心として、農協と連携しながら研修計画を作成することが役員会で話し合われた。

5 今後の発展方向と課題

栽培技術力及び新規就農者の受入れのためには、生産者や試験機関、民間事業者との定期的な情報交換の場は必要であり、今後もこのような機会の設定、支援を行っていく。

新規就農希望者が君津地域で就農できるような研修受入れ計画の策定を農協や生産者と協議しながら行っていく。

6 担当者

南部グループ：高祖 博之、吉井 菜那、加藤 志歩

中央グループ：鈴木 雄介、近森 亮次郎

北部グループ：片山 敬生

7 協力機関

君津市農業協同組合、全国農業協同組合連合会千葉県本部、君津市、富津市、アスタライフサイエンス、農林総合研究センター、農林水産部担い手支援課